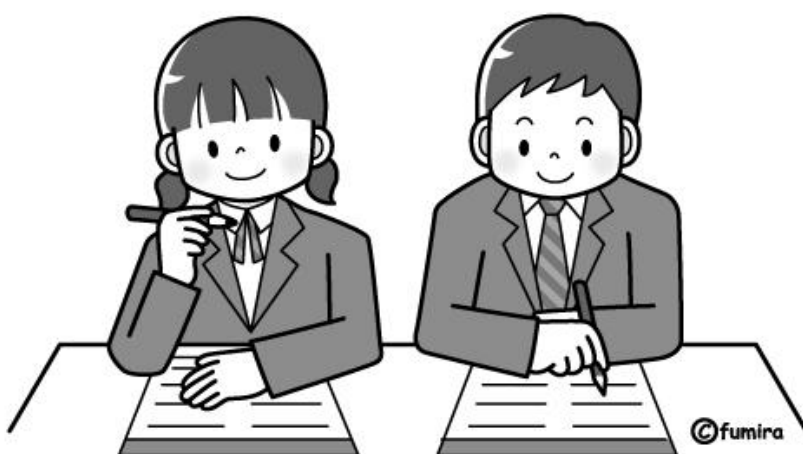


狭山市立狭山台中学校
令和7年度 第1学年

シラバス

〈学習案内〉



☆ このシラバスには、各教科の学習内容・学習ポイント・評価方法が書かれています。

【国語科 シラバスについて】

令和 7 年度 狭山市立狭山台中学校 第 1 学年 国語科 授業計画

1) 教科の目標

- ・ 日常生活で活用できる言語能力を身につけよう。
- ・ 文字を正しく丁寧に書く習慣を身につけよう。

2) 評価の観点

「知識・技能」

学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する。

「思考・判断・表現」

知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身につけているかを評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面と、その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を総合的に評価する。

3) 評価の方法

(1) 「知識・技能」について

○ 「言語事項」の学習活動

- ・ 定期テストの「語句・言語に関する問題」 ・ 休み明け漢字テスト
- ・ 硬筆 ・ 書き初め

(2) 「思考・判断・表現」について

○ 「話すこと・聞くこと」の学習活動

- ・ スピーチ ・ 聞く態度 ・ 聞き取りテスト ・ 発言、発表の仕方

○ 「書くこと」の学習活動

- ・ 定期テストの課題作文 ・ 授業プリント ・ 読書感想文

○ 「読むこと」の学習活動

- ・ 定期テストの「読解問題」 ・ 授業プリント ・ 小テスト ・ 発表の内容

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」について

○ 主に授業中の態度や、日常的な学習・提出物で評価します。

- ・ 忘れ物をしない ・ 積極的に発言する ・ 提出物の期限を守って提出する
- ・ 提出物（授業ノートや漢字スキルワーク・別冊テストなど）の内容
- ・ 古文の音読テスト ・ 古文の暗唱テスト（定期テストも含む）

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単 元	学 習 内 容
1 学 期	4	言葉に出会うために 言葉に出会うために 野原はうたう 声を届ける 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう	・国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。 ・情景や心情を想像しながら音読する。 ・音読・発表のしかたを理解する。 ・ノートの書き方、工夫のしかたを理解する。 ・辞典・事典で言葉を調べる方法を理科する。 ・「言葉の手帳」を作る。
	5	1、学びをひらく シンジュン 情報を整理して書こう 漢字①漢字の組み立てと部首	・場面の展開に着目することで、何が捉えられたか、自分の言葉でまとめる。 ・わかりやすく伝えるために、構成を工夫する。 ・漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。
	6	2、新しい視点で ダイコンは大きな根？ ちょっと立ち止まって 好きなことをスピーチで紹介する 文法への扉① 情報を集めよう、読み取ろう、引用しよう	・文章と図の関連や段落と段落の関係に注意して文章の構成を捉える。 ・要旨の捉え方についてわかったことを、自分の言葉でまとめる。 ・聞き手が知りたい情報を考えて、聞き手にわかるようにスピーチする。 ・言葉の類別について理解し文章の内容や構成を捉える。 ・言葉がもつ価値に気づき、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合う。
	7	3、言葉に立ち止まる 詩の世界 〔書く〕詩を作ろう 比喩で広がる言葉の世界 言葉①指示する語句と接続する語句 本の中の中学生 読書案内 本の世界を広げよう	・三編の詩の表現を参考にして、詩を作る。 ・比喩について理解し、言葉について考えを深めたことをまとめる。 ・指示する語句と接続する語句の役割について理解する。 ・表現の特徴をとらえて読み、描かれた情景を想像する。 ・本からの情報を集めるための方法を身につけ、目的に応じて必要な情報を読み取る。
2 学 期	9	4、心の動き 大人になれなかった弟たちに…… 星の花が降るころに 項目を立てて書こう 案内文を書く	・描写に着目することで、どんなことが読み取れたか、自分の言葉でまとめる。 ・複数の場面や描写を結び付けて読み、見えてきたことを自分の言葉でまとめる。 ・作成した案内文について、友達と改善点を助言し合う。
	10	言葉② 方言と共通語 漢字② 漢字の音訓	・共通語と方言の果たす役割について理解する。 ・「音」と「訓」の歴史や性質を理解する。
		5、筋道を立てて 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	・筆者の論の展開の特徴を、「事実と意見」という言葉を使って書く。
	11	話題や展開を捉えて話し合おう グループディスカッションをする	・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けてまとめる。
		6、いにしへの心にふれる 音読を楽しもう いろは歌 古典の世界 蓬萊の玉の枝 「竹取物語」から 今に生きる言葉 〔書く〕故事成語を使って体験文を書こう	・3年間の古典学習についても通しをもつ。 ・現代の文章とkg古典を比べ、どんな違いに気がついたか挙げる。 ・挙げられている故事成語は、日常生活の中でどのように使われているか考える。
	12	7、価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す 〔書く〕根拠を明確にして、意見をまとめよう 文法への扉②言葉の関係を考えよう	・必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめる。 ・単語の類別について理解する。
3 学 期	1	8、自分を見つめる 少年の日の思い出 〔書く〕別の人物の視点から文章を書き換えよう 文法への扉③ 単語の性質を見つけよう	・「僕」の考え方や感じ方について、共感することや疑問に思うところを話し合う ・「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深める。 ・体験や思いを伝えるために、言葉を吟味して選び、随筆を書く。
	2	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く 言葉③ さまざまな表現技法 漢字③ 漢字の成り立ち	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解して使用する。 ・漢和辞典を利用して漢字の成り立ちを調べ、分類する。
	3	一年間の学びを振り返ろう 要点をフリップにまとめ、発表する 学習を振り返ろう	・観点を決めて、一年間の学習を振り返る。 ・一年間で学習してきたことに関する学習課題に取り組み、さらに理解を深める。

1) 教科の目標

- ・地理や歴史に興味を持って、積極的に調べ、考えられる生徒の育成。
- ・社会事象に関する基礎的教養を身につける。

2) 評価の観点

・社会的事象への理解と資料活用 of 技能	我が国の国土と歴史, 現代の政治, 経済, 国際関係等に関して理解しているとともに, 調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
・社会的な思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義, 特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり, 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり, 思考・判断したことを説明したり, それらを基に議論したりしている。
・社会的事象を主体的に学ぼうとする態度	社会的事象について, 国家及び社会の担い手として, よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

3) 評価の方法

○定期テスト ○小テスト ○作業学習 (調査・分析) など
○ノートやレポートの内容 など【知識・技能】

○定期テスト
○ノートやレポートの内容など 【思考・判断・表現】

○定期テスト ○ノートの内容 ○社会科の学習に取り組む態度
○自己評価表の記入内容など 【主体的に学ぼうとする態度】

＊ 3つの観点をこれらの方法等で評価し、それぞれA・B・Cの判定をします。

4) 各学期の学習内容

	月	単元	学習内容
1 学 期	4	【地理的分野】 ・世界のすがた ・日本のすがた	・六大陸と三大洋・地球儀と地図 ・国々の名称と位置・大まかな世界地図 ・国土の位置 ・緯度と経度 ・国土や領域の特色 ・都道府県と都道府県庁所在地 ・おおまかな日本地図を描く ・世界における日本の位置 ・時差
	5		
	6		
	7		
2 学 期		【歴史的分野】 ・古代までの日本	・世界の気候・気候帯・伝統的な生活 ・宗教 ・人類の進化 ・古代四大文明とローマ・ギリシャ文明 ・縄文・弥生時代 ・古墳文化
	9		
	10		
	11		
3 学 期	12	【地理的分野】 ・世界の諸地域	・聖徳太子の政治 ・律令国家の成立 ・奈良時代のくらしと政治、天平文化 ・平安時代の政治と国風文化 ・アジア州の特色 ・ヨーロッパ州の特色 ・アフリカ州の特色 ・南北アメリカの特色 ・オセアニア州の特色
3 学 期		【歴史的分野】 中世の日本	・武士の成長と武家政権の成立 ・鎌倉時代の民衆のくらしと鎌倉文化 ・東アジアの変動と元寇、南北朝の動乱 ・室町幕府と経済発展 ・室町時代の民衆の成長と戦国大名 ・室町文化
	1		
	2		
	3		

【数学科 シラバスについて】

令和7年度 狭山市立狭山台中学校 第1学年 数学科 授業計画

1) 教科の目標

1	数を正負まで拡張し理解を深めよう。また文字を用いることの意義及び方程式の意味を理解するとともに、数量の関係・法則を一般的かつ簡潔に表現・処理できるようにしよう。
2	平面・空間図形について観察・操作などを通して、直感的な見方や考え方を深めよう。
3	具体的な事象から、比例・反比例の見方・考え方を深め、数量の関係を表現し考えよう。

2) 評価の観点

①知識 技能	・個別の知識及び技能の習得状況について評価する。 ・それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。
②思考判断表現	・数学の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。
③主体的に取り組む態度	・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

3) 評価の方法

授業や課題への取り組みの態度、定期テスト、提出物、レポート、ワーク、プリント、宿題、発言 等
--

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
1 学 期	4月	1章 正の数・負の数	○負の数の意味を理解し、正の数・負の数の必要性和有用性を知るようにします。
		1節 正の数・負の数	
	5月	2節 正の数・負の数の計算	○正の数・負の数の四則について理解し、それらの計算ができるようにします。
		3節 正の数・負の数の利用	

	6 月 7 月	2 章 文字の式 1 節 文字を使った式 2 節 文字式の計算	○文字を用いることの意義を理解できるようにします。 ○文字を用いた式の乗法・除法の表し方を理解できるようにします。 ○一次式の計算ができるようにします。
2 学 期	9 月 10 月	3 章 方程式 1 節 方程式 2 節 方程式の利用	○方程式及びその中の文字や解の意味を理解できるようにします。 ○等式の性質を見いだし、方程式がそれに基づいて解けることを知ることができるようにします。 ○一元一次方程式を解くことができ、それを利用することができるようにします。
	10 月	4 章 変化と対応 1 節 関数 2 節 比例 3 節 反比例 4 節 比例、反比例の利用	○比例・反比例の意味を理解できるようにします。 ○比例・反比例を表・式・グラフで表し、それらの特徴を理解できるようにします。 ○比例・反比例の見方や考え方を活用できるようにします。
	11 月 12 月	5 章 平面図形 1 節 直線図形と移動 2 節 基本の作図 3 節 円とおうぎ形	○図形の移動の意味を理解できるようにします。 ○平面図形についての直感的な見方・考え方を深められるようにします。 ○基本的な作図の方法を理解し、それを利用することができるようにします。
3 学 期	1 月 2 月	6 章 空間図形 1 節 立体と空間図形 2 節 立体の表面積と体積	○空間における直線と平面の位置関係を知ることができるようにします。 ○扇形の弧の長さ・面積及び基本的な柱体・錐体・球の表面積・体積を求めることができるようにします。
	3 月	7 章 資料の活用 1 節 ヒストグラムと相対度数 2 節 データにもとづく確率	○資料を散らばりや代表値を用いて整理できるようにします 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解できるようにします 多数回の試行の結果から、相対度数を計算し確率を求めることができるようにします
		復習	○1 年間の学習の総まとめをします。

【理科 シラバスについて】

令和7年度 狭山市立狭山台中学校 第1学年 理科 授業計画

1) 教科の目標

◎自然の事物・現象に進んで関わり、目的意識を持って観察・実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

2) 評価の観点

(知識・技能) 自然の事物・現象についての概念・原理・法則を理解し、科学的に探究するために必要な観察・実験の基本的な操作・記録ができる。また、実験・観察の基本的な技術を身に付けている。

(思考・判断・表現) 自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって実験・観察を行い、得られた結果から解釈・表現するなど、科学的に探究している。

(主体的に取り組む態度) 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しを持ったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3) 評価の方法

◎授業への取り組み、実験・観察の取り組み、提出物の状況、挙手・発言、小テスト、レポートの内容、定期テストなど

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
1 学 期	4	いろいろな生物とその共通点 1. 花のつくりとはたらき 2. 葉と根のつくり	・校庭や学校周辺の生物の観察を行う。 (スケッチの仕方、顕微鏡の使い方を理解する。)
	5	3. 植物の分類 4. 動物の分類	・花のつくりとはたらき、葉と根のつくりを調べる。
	6		・花の咲かない植物の特徴を調べる。
			・花や葉、茎、根の観察記録に基づいて、植物を分類する。
	7	身のまわりの物質 1. 身のまわりの物質とその性質	・いろいろな動物の体のつくりや特徴を調べ分類する。
			・物質の性質の調べ方を身につけ、物質固有の性質を見いだす。

2 学 期	7	2. 気体の性質	・ガスバーナー各部名称とはたらきを知る。 ・物質の密度の測定方法・計算方法を知る。 ・状態変化における体積と質量変化、沸点融点、蒸留を理解する。 ・身近な気体を発生させその性質を知る。 ・溶解、濃度、溶解度、再結晶、ろかについて知る
	9	3. 水溶液の性質	
	10	4. 物質の姿と状態変化	
	11	身のまわりの現象 1. 光の世界	
3 学 期	12	2. 音の世界	・光の性質（反射・屈折）について実験をとおして理解する ・凸レンズによってできる像を調べ、作図できるようにする。 ・音の発生の仕方、伝わり方、音の大小・高低と振動数・振幅との関係を実験をとおして理解する。 ・フックの法則の実験から、グラフの書き方を理解する。
		3. 力の世界	
	1	大地の変化 1. 火をふく大地	
	2	2. 動き続ける大地	
3 学 期		3. 地層から読みとる大地の変化	・火山噴出物、火山のできかたを知る。 ・マグマからできた物質（火山岩）の特徴を知る。 ・地震の揺れはどのように伝わるのかを知る。 ・プレートの運動と地震発生のメカニズムを知る。 ・大地の隆起沈降について理解する。 ・地層がどのようにしてできるのかを知る。 ・堆積岩・化石の特徴を調べる。
	3		

1) 教科の目標

- ①英語を使って自らコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ②4領域（聴く・話す・読む・書く）の調和を心がけ、基礎学力が定着する授業を工夫する。
- ③英語圏をはじめとする異文化に触れ、グローバルな見方や国際人としての自覚を育てる。

2) 評価の観点

1 知識・技能

実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話したり書いたりして表現したり伝えあったりする技能を身に付けている状況进行评估する。また日常的话题や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている状況进行评估する。

2 思考・判断・表現

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしている状況进行评估する。日常的话题や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概要、要点などを捉えている状況进行评估する。

3 主体的に学習に取り組む態度

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況进行评估する。

※以上の観点について、聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くことについて評価する。

3) 評価の方法

- 1 小テスト・定期テスト
- 2 発表（スピーキングテスト）・音読（リーディングテスト）・英作文・小テスト・定期テスト
- 3 授業態度、ノート、ワークブック、ワークシート、その他提出物

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
1 学 期	4 月	学習の仕方	・ 予習・復習の仕方やノートのまとめ方について学習する。
		Get Ready	・ 小学校の復習（アルファベット）
		Program 1	・ 自己紹介や相手との問答をする。（be 動詞）
		友達を作ろう	・ あいさつができる。
	5 月	Word Web1	・ 疑問詞の使い方を学ぶ（where）
		Program 2	・ 数の言い方を学ぶ。
		1－Bの生徒たち	・ すばやく質問に答えられるに練習する。
	6 月	Word Web 2	・ 一般動詞について学習する。
		Step1	・ 疑問詞の使い方を学ぶ（when）
		Program 3	・ 曜日と天気の違い方を学ぶ。
7 月	タレントショーを開こう	・ 助動詞について学ぶ(can)	
	Step2	・ 疑問詞の使い方を学ぶ（what）	
	Our Project 1	・ 考えを整理して表現する方法を学習する。	
	あなたの知らない私	・ 1学期に学習した事柄を生かし、簡単なスピーチをする。	
		Power-Up1	・ 店での会話を学ぶ。

2 学 期	9 月	Program 4 Let's Enjoy Japanese Culture Power-Up 2 Program5	・身の回りのものについて説明する。 ・疑問詞の使い方を学ぶ (who) ・疑問詞の使い方を学ぶ (which whose) ・一般動詞の三単現について学ぶ。
	1 0 月	The Junior Safety Patrol Word Web3 Program 6 The way to school Power-Up 3 Power-Up 4 Word Web 4	・季節・月の名前を学ぶ。 ・三人称の目的格について学ぶ (him/her) ・疑問詞について学び (why)、理由を答える練習をする ・道案内の仕方を学ぶ。 ・店内放送を聞き取る。 ・順番・日付の言い方を学ぶ。
	1 1 月	Program 7 Research on Australia Step3 Step4	・「～がある (いる)」(There is~/ There are)について学ぶ。 ・疑問詞 (how) について学ぶ。 ・話の組み立て方を学ぶ。 ・すばやく質問に答えられるに練習する。
	1 2 月	Word Web 5 Our Project 2 この人を知っていますか Power-Up 5	・疑問詞のまとめをする。 ・2 学期に学習した事柄を用いて、人を紹介するスピーチを行う。 ・インタビューを聞き取る。
3 学 期	1 月	Program 8 The Year-End Events Steop5 Program 9	・現在進行形について学ぶ ・絵や写真の説明の仕方を学ぶ。 ・過去形について学ぶ。(規則動詞 不規則動詞)
	2 月	A Trip to Finland Step6 Program 10 Grandma Baba's Warming Ideas!	・文の内容を整理して表現し発表する。 ・読み物教材を通して、読解力をつける。 ・すばやく質問に答えられるに練習する。
	3 月	Our Project 3 私が選んだ 1 枚	・5W1H を活用して、会話力を高める

【音楽科 シラバス】

令和 7 年度 狭山市立狭山台中学校 第 1 学年 音楽科 授業計画

1) 教科の目標

(1)知識及び技能

曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2)思考力、判断力、表現力等

音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

(3)学びに向かう力、人間性等

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

2) 評価の観点

①知識・技能	・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解しているかを評価する。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表しているかを評価する。
②思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしているかどうかを評価する。
③主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしているかを評価する。

3) 評価の方法

- ・学習状況の達成度をふまえ、上記①～③の観点を A・B・C で評価し、それらをもとに 5 段階の評定を出します。
- ・評価の材料は下記のとおりです。
定期テスト（1・3 学期末）、実技発表及び実技テスト、小テスト、ワークシート、学習活動の様子、発言発表・ワーク・レポート等の内容 等

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	題材	学習内容
1 学 期	4月	○ガイダンス	・授業の受け方、年間の学習計画、評価について知る。
	5月	○豊かな響きの発声を身に付けよう ・リズムゲーム ・校歌、 My Voice ! ・いろいろな発声練習	・仲間と音楽を通してコミュニケーションを図る。 ・発声の原理を知り、豊かな響きをもった発声を身に付ける。 ・狭山台中学校の一員として、思いをこめて校歌を歌う。 ・美しいハーモニーを感じて歌う力を養う。
		○音楽の特徴に注目しながら、情景を思い浮かべよう ・ジョーズのテーマ ・春 第1楽章	・音楽を形づくっている諸要素を知覚し、その特徴を感じ取って場面をイメージして鑑賞する。 ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
	6月	○曲の構成を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう ・主人は冷たい土の中に ・指揮をしてみよう	・曲の構成に意識を向け、音楽を構造的に捉えて表現の工夫ができるようにする。 ・基本的な拍子や、曲想を指揮で表現する。
	7月	○音のつながりの特徴を生かして、創作表現を工夫しよう～My Melody～ ○情景を思い浮かべながら表情豊かに歌おう（心の歌） ・浜辺の歌（1学期） ・赤とんぼ（2学期）	・リズムを読む力、書く力を養う。 ・音のつながり方の特徴を理解し、それらを生かした創作表現をする。 ・歌詞の内容を感じ取り、音楽の諸要素の働かせ方を工夫しながら曲想にふさわしい歌唱表現を工夫する。
		○人々の暮らしの中から生まれた音楽 ・日本の民謡	・生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ・声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫する。
		○曲想やパートの役割を感じ取って、歌唱表現を工夫しよう ・校内音楽会学年・クラス合唱曲	・パート練習の方法などを学び、自分たちで協力してよりよい合唱をつくりあげる。 ・歌詞の内容や思いが聴き手に伝わる合唱を目指し、声部の役割や全体の響きとの関わりを意識して歌唱表現を工夫する。
	10月	○曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・「魔王」	・詩と音楽の関わりによる豊かな演奏効果を感じ取りながら、イメージをふくらませて鑑賞する。
	11月	○構成を工夫して音楽をつくろう ～Let's Create!～	・音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解するとともに、それらを生かした創作表現を創意工夫して音楽をつくる。
	12月	○日本に古くから伝わる合奏に親しみ、その魅力を味わおう ・雅楽「平調 越天楽」 ○日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう ・アジアの諸民族の音楽	・曲想と音楽の構造との関わり、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わり、我が国の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。
2 学 期	9月		
3 学 期	1月	○箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう ・箏曲「六段の調」 ・虫づくし、さくらさくら、前奏創作	・箏の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫して演奏する。 ・音のつながり方を工夫したり、箏の様々な奏法を活用したりしながら、イメージに合った「さくらさくら」の前奏を創作する。
	2月	○心をこめて合唱しよう ・卒業、進級に向けての合唱 ・国歌「君が代」	・1年間の学びを生かし、卒業式と進級に向けて先輩への感謝や、新入生を歓迎する思いを伝える合唱表現を追求する。
	3月		

【美術科 シラバス】

令和7年度 狭山市立狭山台中学校 第1学年 美術科 授業計画

1) 教科の目標

「知識及び技能」

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

「思考力、表現力、判断力等」

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

「学びに向かう力、人間性等」

美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2) 評価の観点

○知識・技能

対象や事象を捉える造形的な視点について理解し、表現方法を創意工夫、創造的に表している。

○思考・判断・表現

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。

○主体的に学習に取り組む態度

美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3) 評価の方法

○知識・技能

作品（途中経過も含む）、授業での活動、小テスト、ワークシート 等

○思考・判断・表現

アイデアスケッチ、ワークシート、作品（途中経過も含む）、宿題 等

○主体的に学習に取り組む態度

授業への取り組み、発言、発表、提出物、振り返りカード 等

4) 各学期の学習内容

	月	題材	学習内容
1 学 期	4	絵や彫刻で学ぶこと (ガイダンス・鑑賞) 教 p8, 9	・美術の学習の大切さを知り、授業の基本的ルールや心構えを知る。 ・周囲に流されず独自の表現を貫き通す草間の作品を鑑賞しながら、表現することの意味を考えさせ、今後の表現の学習につなげていく。
	5 6 7	色の学習 教 p63～p64 表現 なるほど！おもしろアート文字 (描く・デザイン) 教 p56～	・アクリルガッシュの使い方と色のもつ性質や配色のよさについて学習する。 ・レタリングの基礎を学び、漢字から受けるイメージを感じ取り、絵文字にする。 アクリルガッシュの使い方、平塗りの技法を学ぶ。
2 学 期	9	表現 動き 感じる 瞬間 (つくる・彫刻) 教 p16～19	・人物の動きをテーマに粘土で表現する。人体の動きや姿勢、人体のもつ造形的な美しさや力強さに関心をもち主体的に表現する。
	10 11 12	鑑賞 若冲の世界 教 p24～29	・樹花鳥獣図屏風を鑑賞し、作者の意図、創造的な工夫、心情や生き方などについて考える。
3 学 期	1 2 3	表現 見たい！使いたい！私のブックカバー (描く・つくる、絵画、工芸) 教 p14,15,38,39,55	・モダンテクニックを身につけ、そこで生まれた形や色彩からイメージをふくらませて表現する。作品のイメージ、表現の工夫、表現技法の選択などに注目し、自分の思いや考えをもって味わう。 ・日本の伝統文様についてふれデザインの成り立ちやそこに込められた意味を知る。

※制作状況により題材の順番が前後することがあります。

令和7年度 保健体育科シラバス

1 授業の目標

- ①積極的に運動に親しむ資質や能力の育成。
- ②健康の保持増進のための実践力の育成。
- ③運動の合理的な実践を通して体力の向上を図る。

授業のねらい

○授業の約束を守りましょう。

- ① 授業の時間を守る
- ② 服装を整える
- ③ 道具の忘れ物をしない
- ④ 見学時の連絡（生徒手帳）



○「自分から」取り組みましょう。

- ① 準備運動や係の仕事が『自分から』できる。
- ② できないことをできるようにするために調べたり聞いたり工夫したりと指示を待つのではなく『自分から』取り組める。
- ③ 自ら学び、自ら考える力を育てるために「運動の学び方」を重視しています。

○自己評価（自分自身で）や相互評価（友達と）を大切にしましょう。

- ① 自分の態度や服装、技能を自分で評価しよう。（資料や学習カードの活用）
- ② 友達とお互いに評価しあい、それを励みにさらに次の段階へ進みましょう。
- ③ 先生の評価や指導・アドバイスをどんどん取り入れましょう。

2 評価の観点と方法

※観点別評価はABCでつけ、それを受けて5段階で評定として表します。

観 点	評 価 規 準	各評定における観点の評価の基準			
① 知 識・技 能		5			
学習した基本技能	各単元でしめす	4			
発展技能	各単元でしめす	3			
② 思 考・判 断・表 現		2			
学習カードの書き込み	必要事項が記入してある	1			
課題のポイント	自己の課題を確認できる	基本的なパターンです。			
ゲーム等で応用	ルールを理解し、ゲームができる				
③ 主体的に学習に取り組む態度		保健体育が好きになるためには ①自分の体の健康や調子に関心を持ちましょう ②自分の体力・運動能力を知りましょう ③身近なスポーツに興味・関心を持ちましょう ④積極的に身体を動かし、終わった後の心地よさを味わいましょう ⑤基本的生活習慣を身につけましょう			
服装・忘れ物	1～2忘れ、単元による				
自主的な準備運動	自ら進んで取り組める				
機敏で意欲的	笛や合図の約束を理解している				

3 各学期の学習内容と学習のポイント

保健体育科ではこんな学習をします

狭山台中学校で学習する保健体育は、体育分野と保健分野の2つの分野に分かれています。

○ 体育分野では

- (1) 体づくり運動 (2) 器械運動 (3) 陸上競技 (4) 水泳 (5) 球技
- (6) 武道(柔道)
- (7) ダンス
- (8) 体育に関する理論を学習します。

○ 保健分野では

- (1) 心身の機能の発達と心の健康 (2) 健康と環境
- (3) 傷害の防止 (4) 健康な生活と疾病の予防を学習します。

○保健体育科の基礎・基本とは

- ①運動の楽しさや喜びを味わうこと
- ②健康で安全な生活を営むこと
- ③体力を高めること

「体力」や「技能」だけではなく「態度」や「学び方」を含めて広くとらえています。



授業の学習内容

	1 年	2 年	3 年
1 学期	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・新体カテスト ・陸上競技 ハードル、走り幅跳び ・器械運動 ・水泳 ・体育に関する知識	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・新体カテスト ・陸上競技 ハードル、走り幅跳び ・器械運動 ・水泳 ・体育に関する知識	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・新体カテスト ・陸上競技 ハードル、走り幅跳び ・器械(陸上・器械は選択) ・水泳 ・体育に関する知識
2 学期	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・陸上競技 ・ダンス ・ソフトボール ・バレーボール ・保健	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・陸上競技 ・ダンス ・ソフトボール ・バレーボール ・保健	○オリエンテーション ・体づくり運動 ・陸上競技 ・ダンス、バレーボール ソフトボール 1 選択 ・バドミントン、ハンドボール、ソフトテニス 1 選択 ・保健
3 学期	○オリエンテーション ・武道(柔道) ・サッカー ・バスケットボール ・保健	○オリエンテーション ・武道(柔道) ・サッカー ・バスケットボール ・保健	○オリエンテーション ・武道(柔道) ・バスケットボール } 1 選択 ・サッカー ・保健

【技術科 シラバスについて】

令和7年度 狭山市立狭山台中学校 第1学年 技術科 授業計画

1) 教科の目標

- ・生活に必要な基礎的な知識と技術（スキル）の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する力を身につける。
- ・実習を通して、実践的・体験的に「ものづくりやエネルギーの利用」および「コンピュータの活用」等に関する基礎的な知識と技術を習得する。
- ・技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に評価し活用する力を養う。

2) 評価の観点

1. 知識・技能

＊習ったことに関する理解力・身につき方

- ①定期テストによって、知識・理解度を評価する。
- ②プリント内容等に習ったことが記入されている。

＊道具の使い方、コンピュータの使用方法および機能の使い方

- ①パソコンを適切に扱う。
- ②道具を安全に使い、正しく使うこと。

2. 思考・判断・表現

＊作品に対して工夫したり、努力したりする様子が見られたか

- ①作品の仕上がりに工夫し、解決しようとしている。
- ②製作への努力をして、周囲に伝えることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

＊授業に対する取り組み方

- ①忘れ物をしない。
- ②発言の機会があったら積極的にする。
- ③授業中は私語をしないで、集中して取り組む。実習（作業）は意欲的に取り組む

3) 評価の方法

(1) 1～3のそれぞれの観点について、A, B, Cをつけ、その観点をもとにして技術科の5段階の評定を出します。

(2) 学年評定は家庭科の評定と合わせて、「技術・家庭科」の評定を出します。

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
1 学 期	4 月	【ガイダンス】 ・技術分野の学習内容や学習の進め方についての見通し	・技術分野で学ぶこと ・技術を見つけよう ・技術とわたしたちの生活 ・学習の見通しをもとう
	5 月	【D情報】 ・情報についての基礎的・基本的な知識・技能	・情報とわたしたちの生活 ・情報通信ネットワークの利用 ・情報通信ネットワークと情報セキュリティ
	6 月	【A材料と加工】	・ものづくりの視点と進め方
	7 月	・材料と加工の技術についての基礎的・基本的な知識・技能	・材料 ・設計
2 学 期	9 月	・材料と加工の技術による問題解決	・木材による製作 ・実習
	10 月	・社会の発展と材料と加工の技術	・材料と加工に関する技術の評価・活用

* 技術と家庭科は前期後期で入れ替わります。
切り替えの時期は10月下旬頃を予定しています。

【家庭科 シラバスについて】

令和7年度 狭山市立狭山台中学校 第1学年 家庭科 授業計画

1) 教科の目標

<家族・家庭生活>

○家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族・家庭の基本的な機能について理解する。

○家族・家庭生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。

<食生活>

○健康・安全で豊かな食生活に向けて考え、工夫する活動を通して、中学生に必要な栄養の特徴や健康によい食習慣、栄養素や食品の栄養的な特質、食品の種類と概量、献立作成、食品の選択と調理などに関する知識及び技能を身に付ける。

○これからの生活を展望して、食生活の課題を解決する力を養い、食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしようとすることをねらいとする。

2) 評価の観点

①知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。
②思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3) 評価の方法

定期テスト、実技テスト、学習ノート、レポート 等

※学年評定は技術科の評定と合わせて、「技術・家庭科」の評定を出します。

4) 各学期の学習内容と学習のポイント

	月	単元	学習内容
2 学 期	10 月	家庭分野ガイダンス	・家庭分野の学習内容や学習の進め方について
	11 月	【B 衣食住の生活（食生活）】 1 食事の役割と食習慣 2 中学生の発達と必要な栄養を満たす食事	・食事の役割 ・健康によい食習慣 ・体に入った栄養素のゆくえ ・中学生の発達と必要な栄養 ・6 つの基礎食品群と食品群別摂取量のめやす
	12 月	6 献立作り	・栄養バランスのとれた献立
3 学 期	1 月	3 さまざまな食品とその選択	・食品が食卓にのぼるまで ・生鮮食品の選び方と保存 ・加工食品の種類と特徴、表示と選び方 ・食品の安全と情報
	2 月	7 持続可能な食生活 4 日常食の調理	・食品ロスと食料自給率 ・調理の目的、手順、衛生と安全 ・食中毒と食物アレルギー ・加熱調理の方法 ・いろいろな食材の切り方 ・肉、魚、野菜の調理
		5 地域の食文化	・雑煮からわかる地域の食文化
	3 月	【A 家族・家庭生活】 1 自分の成長と家族・家庭生活	・自分の成長と周囲の人びと 家族・家庭の機能、家庭の機能を支える仕事 ・中学生と家族

※技術と家庭科は前期後期で入れ替わります。

切り替えの時期は10月下旬頃を予定しています。

1) 教科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

2) 評価の視点

- ・物事を多面的、多角的に捉えている様子
 - ・道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている様子
- 数値による評価はせず、記述式とする。

3) 評価の方法

授業や課題への取り組みの様子、ワークシートの記述、授業中の発言 等
各学年で可能な限りローテーション授業を行い、多くの教員からの視点で生徒の発言や心の変容を見届ける

4) 各学期で学習する内容項目

	1 年生	2 年生	3 年生
1 学 期	・礼儀 【あいさつを交わして】 ・遵法精神、公德心 【義務について考えよう】 ・向上心、個性の伸長 【自分との付き合い方を考えよう】 ・相互理解、寛容 【いじめに当たるのはどれだろう】 ・自主、自律、自由と責任 【傍観者でいいのか】 ・節度、節制 【安全な生活のために】 ・友情、信頼 【友達とともに】 ・勤労 【働くってどんなこと？】 ・社会参画、公共の精神 【ボランティア活動に参加して】 ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 【ふるさとのために】	・礼儀 【良好な関係を目指して】 ・社会参画、公共の精神 【よりよい社会を目指して】 ・相互理解、寛容 【歩調を合わせて】 ・公正、公平、社会正義 【私のせいじゃない】 ・自主、自律、自由と責任 【あの子のランドセル】 ・友情、信頼 【みんなでとんだ！】 ・向上心、個性の伸長 【今を生きる私のために】 ・家族愛、家庭生活の充実 【思いを形に】 ・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 【和食の良さってなんだろう】 ・思いやり、感謝 【支えあいの中で】 ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 【郷土の魅力にふれて】	・礼儀 【言葉にそえて】 ・勤労 【働くことの喜びとは】 ・公正、公平、社会正義 【無実の罪】 ・自主、自律、自由と責任 【ある日の午後から】 ・思いやり、感謝 【周りの人に支えられて】 ・よりよく生きる喜び 【信念をつらぬいて生きる】 ・家族愛、家庭生活の充実 【家族の支えがあるから】 ・向上心、個性の伸長 【見方を変えれば】 ・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 【郷土に息づく心にふれて】 ・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 【先人の思いとともに】 ・節度、節制 【日々を見つめて】

2 学 期	・生命の尊さ 【いのちを考える】 ・郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度 【心に郷土を刻もう】 ・遵法精神, 公徳心 【誰もが気持ちよく過ごせる社会を目指して】 ・よりよい学校生活, 集団生活の充実 【よりよいクラス活動を目指して】 ・勤労 【いきいきとかがやいて】 ・思いやり, 感謝 【その人が本当に望んでいること】 ・家族愛, 家庭生活の充実 【家族の思いにふれて】 ・公正, 公平, 社会正義 【クラスの生活をよくするために】 ・よりよく生きる喜び 【心の弱さを乗り越えるために】 ・希望と勇気, 克己と強い意志 【挑戦し続けること】	・生命の尊さ 【いのちを考える】 ・遵法精神, 公徳心 【よりよい社会のために】 ・節度, 節制 【気持ちを整えて】 ・友情, 信頼 【情報モラルと友情】 ・よりよい学校生活, 集団生活の充実 【誇りを胸に】 ・相互理解, 寛容 【おおらかな気持ちで】 ・国際理解, 国際貢献 【垣根をこえて】 ・自然愛護 【自然環境に優しく】 ・社会参画, 公共の精神 【たがいに支えあう社会】 ・公正, 公平, 社会正義 【正義を追い求めて】 ・感動, 畏敬の念 【敬意をもって自然と接する】	・感動, 畏敬の念 【神秘の世界へ】 ・生命の尊さ 【いのちを考える】 ・節度, 節制 【自分の生活を見直して】 ・社会参画, 公共の精神 【寄り添う中で】 ・勤労 【将来の自分を見つめて】 ・遵法精神, 公徳心 【次世代のにない手として】 ・友情, 信頼 【情報モラルと友情】 ・自然愛護 【恩恵に感謝して】 ・公正, 公平, 社会正義 【差別や偏見をなくすために】 ・よりよい学校生活, 集団生活の充実 【伝統を創るもの】 ・希望と勇気, 克己と強い意志 【より高い目標を目指して】
3 学 期	・真理の探究, 創造 【新しいものを生み出すときには】 ・友情, 信頼 【情報モラルと友情】 ・国際理解, 国際貢献 【世界の人々をつながる】 ・社会参画, 公共の精神 【公共の精神とは】 ・感動, 畏敬の念 【自然の力と向き合って】 ・相互理解, 寛容 【人の気持ちが分かる人間を目指す】 ・よりよく生きる喜び 【生きることのすばらしさを感じて】 ・自然愛護 【自然との繋がりを考えよう】 ・我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度【日本の伝統と文化にふれて】	・よりよく生きる喜び 【自分を信じて生きるとは】 ・勤労 【勤労から得られるものとは】 ・希望と勇気, 克己と強い意志 【あきらめない気持ちで】 ・我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度【伝統文化を継承し発展させていくために】 ・真理の探究, 創造 【真実を求め続けて】 ・思いやり, 感謝 【気持ちを込めて】 ・遵法精神, 公徳心 【正しい判断とは】	・友情, 信頼 【心から信じ合える友を】 ・相互理解, 寛容 【価値をめぐって】 ・よりよく生きる喜び 【弱さと向き合って】 ・国際理解, 国際貢献 【その子の世界, 私の世界】 ・真理の探究, 創造 【新しいものを生み出すには】 ・思いやり, 感謝 【人っていいなあ 思いやりの連鎖】 ・社会参画, 公共の精神 【自ら社会参画を】